

派遣者番号	29k20	氏名	石井 暁子
研究主題 —副主題—	キャリア教育の視点による小学校国語科の授業開発 —NIEを通して—		
派遣先	早稲田大学大学院	担当教官	三村 隆男
所属校	港区立白金小学校	校長	加納 一好

キーワード：キャリア教育、小学校国語科、NIE

1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

中央教育審議会答申（2016）では、「社会に開かれた教育課程の実現」において、「これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。」が挙げられている。

さらに同答申「子供一人一人の発達をどのように支援するか」の「キャリア教育」においては、「教育課程全体を通じてキャリア教育を推進する必要がある。」と指摘している。

小学校学習指導要領（2017）では、「児童の発達の支援」の「児童の発達を支える指導の充実」において、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」が示されている。

情報化、グローバル化がより一層進み、予測困難な時代を生きる子供たちに、社会や世界の幅広い情報に目を向け、自らの人生を切り拓いていく方法の一つとして、次期学習指導要領では、小学校において社会的・職業的自立を目指す「キャリア教育」が新たに示された。

教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることが求められているため、本実践では、キャリア教育の視点で、国語科におけるNIEを通じた学習を行い、社会や世界の情報と自分をつなげて考え、情報化、グローバル化の社会に対応した生きる力を育成することとした。

社会や世界における情報を基に自分なりの考えをもち、他者との関わりを通して、将来を見据えて生きていこうとする児童を育成するため、キャリア教育とNIE「Newspaper in Education」の連携を試みたい。

2 研究の内容・研究の方法

キャリア教育の視点による国語科の授業の中で、NIEを取り入れた学習を行うことで、情報化、グローバル化の社会に対応した生きる力を育成する。

【理論研究・先行研究】

グローバル化に対応するため、国際理解教育が生徒の「価値観・生き方への意識」を高めるとした三村（2002）の研究をもとに、NIEを通して社会や世界に目を向けるような授業を行う。

【実践研究】

実習校の5年生を対象に、キャリア教育の視点による国語科の授業においてNIEの実践を行う。新聞を読む活動を通し、生きる力を高めるキャリア教育を国語科の授業で実践する。

【単元計画】

前	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の自己効力を、「小学校6年生用進路自己効力尺度」を用いて事前調査する。 新聞及び役に立つことについて診断的調査を行う。 ※調査結果より、今回の授業では主に「こども新聞」を扱うこととした。
1	<ul style="list-style-type: none"> 各自で新聞を読み自分の興味のあるニュースを選んだ。 興味のあるニュースについて交流し、ニュースが共通の児童同士でグループを構成した。 ※今回は、子供たちの興味が、国政（選挙のしくみ、各政党の考え）・米国の動き・北朝鮮の動き・動物・スポーツであったため、興味が共通である児童同士とグループを作り、調べ学習やスクラップ作りに取り組むこととした。
2 3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事の要点の捉え方を確認し、集めた新聞記事の要点を押さえていく。 複数の新聞記事を比べ読みながら分かったことをまとめたり、記事に対する自分たちの意見や感想を入れながらスクラップにまとめたりする。 スクラップ作りを通して、社会との関わりについて考える。
6	<ul style="list-style-type: none"> スクラップを基にして、分かったことや感じたことを発表する。 様々な視点から社会の動きを捉え、自分たちにできることや、社会との関わり方について考える。
後	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の自己効力を、「小学校6年生用進路自己効力尺度」を用いて事後調査する。 学習感想記入

3 研究の結果

(1) 「小学校6年生用進路自己効力尺度」による分析結果

因子名	質問項目	事前平均	事後平均
自己効力尺度	進路開発		
	興味のあることについて、図書館やインターネットで調べてみるができる。	3.03	3.42
	どんな勉強をしたいか、いつか言うことができる。	2.90	3.29
	将来について決めたことがうまくいなくても、くよくよしない。	2.87	3.23
	なりたい自分になるために何が必要かを言うことができる。	3.03	3.13
	計画遂行		
	困った時に自分なりにどうしたらいいか考え、やってみることができる。	3.10	3.32
	自分が挑戦してみたいことを、いつか言うことができる。	3.26	3.45
	不安を抱えながらも自分の目標に向かって少しずつ進むことができる。	3.29	3.48
	自分の理想の仕事や生き方について考えることができる。	3.29	3.29
価値形成			
仕事や生き方をあつめたテレビドラマなどを、興味をもって見るができる。	3.19	3.23	
してみたい生き方をずるには、どんな仕事につとぶか考えることができる。	3.03	3.29	
自分に興味のある仕事や活動をしている人と話ができる。	3.29	3.10	
自分が興味のあることについていつか言うことができる。	3.45	3.61	
やってみたことをうまく行うために、いくつかの段階を決めて取り組むことができる。	2.81	3.39	
これから伸ばしていきたい自分のいいところを言うことができる。	2.71	3.32	
最初に進む活動や方法が気に入らなければ別のものに変更して取り組むことができる。	2.74	3.23	
生きてい上で大切なことについて考えることができる。	3.23	3.39	
社会にあるいろいろな役割や仕事に関連していることと気付くことができる。	2.97	3.52	

尺度を構成している三つの因子での分散分析の結果、「価値形成因子」は有意に上昇していた。「進路開発因子」は有意傾向、「進路計画因子」は有意差が認められなかった。

グループ	標本数	合計	平均	分散	標準偏差	
事前	31	92.5	2.983871	0.311768	0.558362	
事後	31	106	3.419355	0.397909	0.6308	
分散分析表						
変動要因	変動	自由度	分散	観測されたF値	P-値	F 境界値
グループ間	2.939516	1	2.939516	8.284091	0.005534	4.001191
グループ内	21.29032	60	0.354839			
合計	24.22984	61				

*p<.05

(2) 児童の学習感想を「資質・能力」で整理した結果

【情報を得たことによる知識】

- ・日本以外の国で様々な出来事が起きていることが分かった。(14)
- ・日本国内で様々な出来事が起きていることが分かった。(11)

【情報を得るため、得た情報をまとめるための知識・技能】

- ・パソコンの方が分かりやすいと思っていたが、理解するのが難しく、それに比べて子ども新聞は理解しやすい言葉で書かれているので、結局、詳しい情報が得られるのは新聞であることが分かった。(3)
- ・テレビのニュースより、子ども新聞からの方が詳しい情報を得られることが分かった。(3)

【思考力・判断力・表現力等】

- ・新聞の読み方を教わったことで、要点を意識しながら読み、考えながら読むことができた。(3)
- ・グループの友達と交流をしながら学習を進めたことで、記事の内容に対する自分の考えと友達の考えを比較しながら考えることができた。(3)

【学びに向かう力】

- ・社会で起きている出来事に興味をもつようになった。今後も知りたい。(14)
- ・今後も新聞を読みたいと思った。ニュースを理解することは大切だと感じた。(10)

【人間性等】

- ・ニュースを知ることで、社会に対して自分の考えをもつことができた。(7)
- ・将来、社会の一員としてどのようになりたいか考えることができた。(6)

4 研究の考察

先行研究である(三村 2002)は、高校生に国際理解教育を行い、「価値形成因子」が有意に上昇するという結果が表れたが、今回の授業では、小学生における国際理解教育を行い、同じく「価値形成因子」が有意に上昇するという結果を得ることができた。

NIEを通し社会や世界の出来事について学んだり、得た情報に対する考えと交流したりすることを通して、自分の日々の生活で何を大切に思うのかという「価値形成における自己効力」を高めることができたと考える。

今回のNIEを通した学習は、子供たちが社会や世界の出来事に関心を示すきっかけとなった。また学級全体で調べた内容を共有することにより、全員が海外の出来事にも目を向け、国際理解教育にもつながったため、結果として生きる力の基盤となる価値観の形成につながったと考えられる。

また国語科の目標である大切なことは何か考えながら読む習慣を付けたり、グループの仲間との交流を有効に活用して進めることができた。

5 今後の展望

先行研究も今回の研究においても、価値形成因子のみ有意であった。なぜこのような結果となったのか、自己効力尺度の調査用紙の質問項目を分析したところ、進路開発因子、計画遂行因子の項目は、短期間では考え方に変化が表れにくい項目であることが分かった。そのため、今後キャリア教育において、長期的な視野で進路開発因子、計画遂行因子も高めていく授業を開発していくことが課題である。

また今回の研究を通して、教科におけるキャリア教育やNIEの活用の仕方を詳しく学ぶことができた。今後、学校現場では、キャリア教育やNIEの実践事例を積極的に紹介したり、今回の学びを生かした授業を取り入れたりしながら、教育活動を充実させていきたい。

6 引用・参考文献

中央教育審議会(2016)幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)、pp.69-71. p.231.

三村隆男(2002).「国際理解教育における学習機能に関する試行的研究—「留学生が先生」授業における5年間にわたるアンケート調査をもとに—」日本特別活動学会紀要10号 pp.1-56.

三村隆男(2008)「新訂キャリア教育入門」,実業之日本社, pp.38-48.

文部科学省(2017).小学校学習指導要領, pp.9-10.